

第4回蒲郡市生涯学習推進計画2022策定委員会 会議録

日時：令和3年12月13日（月）

午後2時10分～3時45分

場所：蒲郡市役所本館201会議室

■委員出席者（計12名、敬称略・順不同）

中山弘之、足立泰敏、石川たづ子、小林浩子、松山照夫、新井麻利子、
大須賀めぐみ、中村達、稲吉初美、青木宣貴、伊藤健二、丸山いづみ

■事務局

【生涯学習課】三浦課長、伴、早川、廣中

【(株) ジャパンインターナショナル総合研究所】竹内

■次第

- (1) 生涯学習課長あいさつ
- (2) 蒲郡市生涯学習推進計画2022 計画最終案について
- (3) 蒲郡市生涯学習推進計画2022 今後の予定について
- (4) その他

■開会

(事務局)

定刻を過ぎておりますので、さっそく始めさせていただきます。

委員の皆様、本日はお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、策定支援業者の株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所の竹内様にもご出席いただいております。よろしくお願いいたします。

それでは、ただいまより、「第4回蒲郡市生涯学習推進計画2022策定委員会」を開催します。初めに、蒲郡市生涯学習推進計画2022策定委員会設置要綱により、本日の出席者が定足数を満たしておりますことをご報告させていただきます。

まず、本日の資料の確認をお願いします。12月6日にご自宅又はご勤務先へ発送しておりますが、冊子をお持ちでしょうか。本日の次第、出席者名簿、資料1から4までは机の上に置かせていただいておりますが、すべておそろいでしょうか。

それでは、次第にそって進めてまいります。

(1) 生涯学習課長あいさつ

(事務局)

はじめに、生涯学習課長の三浦よりあいさつをさせていただきます。

(三浦課長)

皆さんこんにちは。年末に向けご多用の中お集まりいただきありがとうございます。おかげさまでこの会議も4回目となりました。これまで皆さんからいただいたご意見や市民アンケートの結果をまとめ、なんとか形になってきたと思います。いろいろ課内で議論を重ねてきており、当日の差し替え資料もありますが、今日はそれをご覧いただき、忌憚のないご意見をいただければと思います。この後は年末に向けて最終的な仕上げをし、1月にパブリックコメントを実施する予定です。パブリックコメントの後、計画に大きな変更がなければ、最終調整は我々事務局にお任せいただき、最終的に議会に報告できればと思っております。委員の皆様にはこれまで何度も計画案を見ていただき、検討を重ねていただきました。今日で最後の策定委員会にしたいと思っておりますので、言いたいことを全て言っていただければと思います。よろしく願いいたします。

(事務局)

それでは、ここからの進行は議長の中山委員長をお願いしたいと思います。中山委員長よろしく願います。

■議事

(2) 蒲郡市生涯学習推進計画2022 計画最終案について

(中山委員長)

早速進めていきたいと思えます。それでは、次第2「生涯学習推進計画2022計画最終案について」事務局から説明をお願いします。

<資料に基づき事務局説明>

(事務局)

以上が計画最終案に変更を追加した部分の説明です。先ほど社会教育審議会で、3章以降が計画の本編であるので、1、2章の前に持ってきたらどうかというご意見がありました。

あと、行動指標と推進目標を設定しましたが、推進目標でこのようなことを目指す、そのためにはこういった数値目標の達成を目指す、という流れで記載順を逆にしてはどうかというご意見がありましたので、検討していきます。以上です。

(中山委員長)

ありがとうございます。審議会でも色々なご意見がでたようですが、忌憚のない議論ができるということが蒲郡市の良いところではないかと思えます。

引き続き何かご質問やご意見、お気づきの点があればご指摘いただければと思います。いかがでしょうか。

(委員)

計画が完成した後、市民への周知方法はどのようにしていくのでしょうか。概要版を作成し、全戸配布するのか、公民館などに配るのか、そのあたりをお聞かせください。

(中山委員長)

とても重要なご質問であると思います。その辺はいかがですか。

(事務局)

まずは概要版を作ります。概要版は見開きのカラー版になります。どこに配布するかは決まっていますが、全戸配布はいたしません。計画の本編は蒲郡市のホームページで公表していきます。

(中山委員長)

ありがとうございます。確かにご指摘の通り、計画を作成しただけで終わりにするというのではなく、どうやって広げていくか、そのあたりが大事だと思います。生涯学習課としてそこも取り組んでいただけるということで、ご回答いただきました。

そのほかはいかがでしょう。

(委員)

42ページの「託児付きの講座」はとてもありがたいと思います。ですが、担い手が不足しているので、「託児ボランティアの養成講座」の取り組みを先にさせていただきたいと思います。計画書の中で「地域ボランティアの育成」とうたっていますので、そのあたりの対応もお願いしたいと思います。具体的に託児のボランティアと入れてほしいと思います。

(中山委員長)

関連するご質問などありませんか。事務局から回答があればよろしくお願いたします。

(事務局)

おっしゃるとおり、進めていくにはそういった人材が必要ということは承知しております。49ページのところに関連する記載はあるのですが、42ページに記載するかどうかは検討していきたいと思います。ありがとうございます。

(中山委員長)

事務局より説明がありましたとおり、42ページと49ページの関連をどうしていくかの判断になると思いますが、ご意見として検討していただけるということです。

その他、いかがでしょう。

(委員)

どのあたりまで計画書に記載するかということはあると思いますが、ボランティアの養成のところ、手話奉仕員養成講座や点字・音訳ボランティア養成講座、要約筆記ボランティア養成講座等、色々実施されていると思います。

(中山委員長)

他部署で行っている活動は記載しなくていいかというご意見と思いますがいかがでしょう。

(事務局)

福祉課に確認してみます。

(委員)

図書館でも音訳ボランティア養成講座をやっています。

(委員)

広報がまごおりなどを音訳していただいている点訳ボランティアや音訳ボランティアさんのことも書いてあるとよいと思います。

(事務局)

音訳ボランティアは、図書館で活動しているのと社協で活動しているのは全く別の活動ですか。

(委員)

別です。社協さんでは著作権の問題があつて手間がかかりますが、図書館の資料だと著作権に関係なく音訳ができるということで、デイジー図書なども図書館でやらせてもらっています。

(委員)

(社協では) 広報・議会だよりや社協だよりのほか、日常の電化製品の取扱説明書など、生活に密着したものが多く、物語関係はだいぶ減ってきているようで、そちらは図書館でやられているかもしれません。

(事務局)

図書館は本を読めない方への本の音訳専門で、広報など生活に密着しているものは社協さんということですね。ありがとうございます。

(中山委員長)

今回の計画の施策としてあげているのは、生涯学習課で取り組むことに限定して掲載するという方針になっていますか。

(事務局)

市全体です。

(中山委員長)

生涯学習課に限ったものではないということですね。それでしたら、積極的に載せたほうがいいですね。ありがとうございました。

他にも意見があればお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

(委員)

行動指標の目標値というのは、達成したから実施した施策は成功したという基準になると思いますが、数字だけでそれが言えるのか疑問です。数値化できないこともかなりあると思います。そのあたりをもう少しうたった方が良いのではないかという気がします。

あと表現についてですが「推進を図ります」「解消に務めます」など具体性が感じられないです。具体的にこういう活動をしますという計画を別途作るのでしょうか。

(事務局)

計画書の段階ではこの表現にとどめておりますが、各課としては、1行、2行では書ききれない、大きなものをやっていただいていますので、これを指針、基本として展開していくということです。

数値化できないこともあるという点ですが、そのあたりの評価方法は「計画の推進体制」と

いうところにあげています。データでは説明できない部分をきちんと社会教育審議会で評価してもらうために、私たちが常日頃からアンケートなどに目を通し、講座を実施している主催者に対してコミュニケーションをとっていかうと思っております。そこまで書き留めてはいませんが、数値だけでは成功したとは言いつらいと思いますし、こういうことを頑張っているというのを常日頃からチェックしていきたいと考えています。

(中山委員長)

ありがとうございます。今のやり取りの後半ですが、52ページの計画の進行管理に関わる問題です。確かに、委員がおっしゃるように、数値では測れないものがあるというのは確かで、そのあたりを含め本当に学びになったのかというのを社会教育審議会に住民の皆様を交えてやるというので、52ページに書かれています。委員の趣旨を踏まえると、数値では測れない学びの効果、課題を含め管理していくという文言を入れるかどうか、あるいは数値では測れないものがあるとはっきり書くかどうかということです。そこまで書くというのは、相当、勇気があることだと思いますが、そのあたりは事務局の判断だと思いますので、ご配慮お願いいたします。

(委員)

第3章の計画の基本的な考え方ですが、豊かな学びと文化でつなぐ地域の絆というくくりでタイトルがあり、その前提条件としてのアンケート結果が、10ページ、11ページに載っていますが、子供会の加入率でいうと、コロナの影響もないとはいえませんが、5年の間に20パーセント減です。文化協会の登録者数も20パーセント強の減で、5年の間でかなりの絆が崩れている、分断されていると思います。あと、我々関係者が、従来の形式にもたれきっていて、社会が大きく変わっているのに中身が変わっていないという現状があるのではないかと危惧しています。意識をあげて精進していく姿が必要ではないかと思うので、そのような文面があってもいいかなと思います。

(委員長)

ありがとうございました。文面を追加してほしいということですが、割と計画の根幹にかかわることをご指摘いただいたと思います。事務局としてはいかがでしょうか。

(事務局)

第1章の計画策定の趣旨で、社会情勢の変化から地域とのつながりの希薄化が進んでいることを文章として掲載しています。また、第2章ではデータから見る蒲郡市の現状をまとめ、現状や課題にそって、具体的な施策を展開していくという流れになっています。絆が弱くなってきているということは冒頭で触れているので、そういった文章を入れるかどうかは検討していきたいと思います。

(中山委員長)

ありがとうございます。だいぶいろいろな意見も出されてきたかと思うのですが、ほかはよろしいでしょうか。

今気づいたのですが、40ページで生涯学習活動に対する満足度の向上が推進目標になっていますが、生涯学習活動という言い方をすると、生涯学習課や市役所の他部局、関係の団体で行われている活動だけではなく、民間事業者のカルチャースクールや通信といった、そういう

のも全て入ってしまうのではないかと心配しています。今のところ思いつかないですが、よい表現がないかなと思いましたが。数値目標ではないのでこのままでもいいかなとも思いますし、また気がついた点があれば、私のほうから連絡させていただきます。この点、事務局のほうから何かありますでしょうか。

(事務局)

蒲郡市の企画政策課が隔年で市民に対する意識調査をしております、その中に教育文化についての項目があり、その中のひとつの項目で生涯学習活動という書き方をして、満足度を聞いています。ここの数字をひろっていかうかと思っておりますので、生涯学習活動という書き方をせざるを得ないところがあります。

(中山委員長)

引用ということですね。であればそれでいいかと思えます。ほかはよろしいでしょうか。

では、計画の最終案に対するご意見については事務局で検討するというので、細かい修正があると思いますが、よほどのことがない限り今回は最終の委員会となりますので、今後の修正、調整は事務局に一任ということをお願いしたいと思いますよろしいでしょうか。

よろしいですか。ありがとうございます。それでは、今後は事務局に一任ということ、よろしくお願いいたします。

(3) 蒲郡市生涯学習推進2022 今後の予定について

(中山委員長)

続きまして、次第3「今後の予定について」事務局から説明をお願いします。

<資料に基づき事務局説明>

(中山委員長)

ありがとうございました。今後の予定についてご意見などあればお願いいたします。

(委員)

最初の資料のところ、公民館を統一する、中央公民館の構想があるというようなことが書いてあったように思うのですが、それはできるのでしょうか。今後は組織をしっかりと確立して、横の連絡もしっかりできるよう、整えて頂きたいです。

(事務局)

現状の公民館の機能をということですか。

(委員)

機能はそのままいいのですが、中央公民館組織の中に、芸術部門とかスポーツとか、それらを統括するような組織をしっかりと作ってほしいです。それと文化協会との連絡が密にできるような体制をとっていただきたいと思えます。今日ご出席のボランティアの方と私たちは全く繋がりがなく、文化協会としては国際交流のほうと外国の方々にもぜひみてほしいと思えますが、そういう場合はどうしたらいいか相談したいなと思えます。相談できる窓口などあったほうがいいのかと思えます。

(事務局)

昨年は公民館のグランドデザインを策定し、その中で地区の公民館を盛り上げていくにはどうしたらよいか、蒲郡の社会教育を盛り上げていくにはどうしたらよいかを検討したところ、中央公民館が中核となって、連携・調整役を担っていくほうがよいということも書かせていただいております。しっかりした組織的なものがどこまでできるか、中央公民館にどこまで必要かはわからないのですが、そういう動きができるような場所にはしていきたいと思います。

団体同士の交流がなかったので、今回の計画の中でもやっていきたいという想いは込めさせていただいています。それを中央公民館が行うか生涯学習課が行うかはまだわかりませんが、団体同士の交流を年1回行うということも推進目標としてあげています。文化協会さんを含めいろいろな団体がいろいろ交流できる場所ができたらいいなと思っています。

(中山委員長)

ありがとうございました。その他、今後の予定についていかがでしょうか。

(委員)

概要版として市民の皆様にお伝えすると聞いてうれしいと思いましたが、誰が見てもわかりやすい情報を先に出して、皆さんが興味をもってみて、内容を理解していけるように、そういったつながりのある周知ができればいいと思います。

(中山委員長)

概要版の公表の仕方についてご意見をいただきました。これに関して事務局いかがですか。

(事務局)

予定としては1000部と限られた数ではありますが、ホームページの公表のほか、効果的な情報発信を考えていきたいと思います。

(委員)

ホームページはよいと思いますが、全員がホームページを見ることができるわけではないので、紙ベースで見ることができたほうがよい人もいます。

(委員)

概要版の字は今の大きさのままでしょうか。

(事務局)

概要版について、A3を折ったかたちのパンフレットになる予定です。そこにどの情報を入れていくかによりますが、今見いただいているものよりは大きくなります。

(委員)

もう少し読みやすくなるということですね。ありがとうございました。それと先ほどご意見があったように、文化協会とボランティアの交流がないとすごく思っております。ボランティア連絡協議会は高齢化で人数が少なくなっていて、何とかしたいと思っています。私たちもやれることはやりたい、世の中の役に立つことを知っていただきたい、他団体といっしょにできることを願っていますので、お声かけ頂きたいと思います。

(中山委員長)

ありがとうございました。

社会教育審議会は、新年以降3月くらいまでの間に開催される予定はありますか。

(事務局)

本年度は本日で終わりです。

(中山委員長)

概要版が見やすい、わかりやすいものになるかは、大事な事ではないかと思えます。ゲラを審議会で市民目線から検討できると、よりよい概要版ができるのではないかと思ったので、残念です。

(委員)

概要版の出来がなにより大事だと思えます。市民全員が計画書本編を読むかという、読まないと思えます。概要版があることでこういう活動があるとわかるので、ここで検討できればよいと思えます。

(事務局)

スケジュールの関係上、このような感じですが、とお見せすることはできますが、そこでいただいた意見を反映することは難しい状況です。なるべく見やすいものを作ります。日にちがないので、ご了承願います。

(中山委員長)

概要版の作成にも委員や市民目線を取り入れられるとよりよい計画づくりができるのですが、そのような事情ですので、委員の皆様にはご了承をお願いいたします。概要版の作成については事務局を信じることにしましょう。

(委員)

この表紙はなんとかありませんか。

(事務局)

今後デザインを起こしていきます。

(委員)

本編の中のイラストはこれだけということですか。

(事務局)

スペースが空いているところは策定委員会の写真を載せるなど考えています。そのためのデータはこれから集めていきます。写真等はもう少し増えてくると思えます。

(委員)

中身は立派でよいとしても、読んでもらえなければ意味がないので、表紙を見て読もうと思ってもらえるような表紙を作っていただきたいです。目次の書き方も、これは何だろうという気持ちになれるようなデザインを期待したいです。

(事務局)

ありがとうございます。

(中山委員長)

今後について、何かお気づきの点ありますか。

(委員)

校正で気づいたとことで、11ページの地図の中で大塚公民館にも図書館分室があるので追

加していただきたいです。7ページの上の、その他「市民」が「四民」になっているので修正をお願いします。あと、資料編の53ページの第2条の(2)その他の前が1マスあいているので、上の推進と頭をそろえるほしいです。63ページの「情報公開ってなかに」の鍵括弧がだぶっているの、そこも修正をお願いします。

(中山委員長)

ご指摘いただきましたので修正お願いいたします。

(委員)

60ページの「点訳版の作成と配布」は配布でなく貸出です。

あと、先ほど委員より地域の絆が希薄になってきているというお話がありましたが、新しい絆は生まれていないかと考えたとき、例えば市のLINEや「うーみんなび」の登録者数とかは指標にはならないのかなと思いました。つながりを測るひとつの指標になるのではないのでしょうか。

(中山委員長)

事務局から回答できることはありますか。

(事務局)

事務局でもInstagram「いいじゃん蒲郡」の登録者数で計れないかという話がでたのですが、すべてが生涯学習に直結するものではないということもあります。「安心ひろめーる」も講座情報を発信していますが、講座やイベントの受信の登録をしている方を増やすということだと思うので、生涯学習の推進の中で頑張っって増やしていけるのかどうかというところで難しいという判断になりました。

(中山委員長)

今の回答でよろしいでしょうか。ほかに何かありますか。

(委員)

12ページの生涯学習関連施設の配置状況には児童館の記載がありますが、蒲郡市には3つの子育て支援センターがあり、年間延べ8千人ほどの人が利用しています。児童館と並ぶ子育て支援機関でありますし、講座も月1回以上開催しています。子育て広場など親子で利用していただいているので、児童館を記載しているなら3つの子育て支援センターを入れるべきではないかと思えます。

(中山委員長)

この件も生涯学習課で検討していただけるということでもよろしいでしょうか。

ほかはよろしいですか。ではこの件については以上とします。

(事務局)

今日が会議最後になりますので、よろしければ今日発言いただいていない方もご発言いただけたらと思います。

(委員)

商工会議所は企業向けのセミナーをずっとやっていますので、今後は企業人に対する意識づけのところで協力できるかなと思っています。皆さんに紹介するために、こういうセミナーも生涯学習ですとかなにかわかりやすいチラシなどがあればやりやすいですので、ご検討よろし

くお願い致します。PDFでも構いません。

(中山委員長)

ありがとうございました。

(委員)

子育てに関しても考えてくださっていて、ありがたいと思います。最近、保育園は0歳児から入ってくる子が多いので、お母さん達もまだ保育園に入っていない子たちも楽しく過ごせる場所がたくさんあるといいなと思っています。保育園も協力できることがあればしていきたいと思っております。

(中山委員長)

ありがとうございました。

(委員)

蒲郡青年会議所は若者議会など立ち上げていることを周知していただいておりますが、先日、16回の会議が終わりました。そういう場に出るといことが人の成長につながります。先ほどの情報発信の件もそうですが、我々の団体も外に発信していかないと誰も気づいてもらえないと思いますので、生涯学習課さんだけの話ではなくて、個団体としての努力も必要だと感じました。新しい絆という意味合いで、今はコロナ禍というのもあり今までの生活が当たり前というのではないので、昔ながらの考えも大切ですが、新しい角度からもみながら、我々が考えた策定計画を机上の空論にさせないため、どうすればいいのかを考えていくことが大事だと思います。我々も協力していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(中山委員長)

では次第4「その他連絡事項」について事務局から説明をお願いします。

(4)「その他連絡事項」について

(事務局)

パブリックコメントで計画の内容を揺るがすようなご意見が出てきた場合は、もう一度会議を開かせていただくことがあります。そういったご意見がなければ、今回で最後ということになりますのでよろしくお願いいたします。修正があった場合は2月中旬ごろお声がけさせていただくことになると思いますので、その際はよろしくお願い致します。

今回、資料と一緒に議事録も送らせていただきましたが、漏れや発言の趣旨と異なるところがあればおっしゃってください。問題がなければ、ホームページ上に載せていこうかと思っておりますので、よろしくお願い致します。事務連絡は以上です。

(中山委員長)

ありがとうございました。今回4回目の策定委員会で最終ということですが、私が印象に思うことは、この委員会は非常に活発な意見がでると感じました。委員の皆さんにも蒲郡の生涯学習をよりよくしたいという強い思いがありますし、また、住民や委員の意見を聞こうという姿勢、意見をきちんと受け止める体制が蒲郡市役所の生涯学習課さんにあるからだと思います。これは社会教育の本質にもかなっていますし、市民目線の生涯学習推進計画をつくる上でとても大切だと思います。すべての意見に対応できない事情もあると思いますが、その中でもみんな

なの思いが詰まった計画がつくれたのではないかと思います。計画をつくった後が大事だと委員の皆様からご指摘ありましたが、その部分も生涯学習課や市役所だけをお願いするのではなく、生涯学習に関わる我々がそれを広げ、蒲郡の生涯学習を盛り上げていく心づもりで、皆様にはご協力をいただければと思います。委員会はこれで終わりますが生涯学習活動はこれが始まりとなります。そういう意識で今回の委員会は閉じられればいいと思います。ありがとうございました。

(事務局)

最後に三浦課長、よろしくお願いします。

(三浦課長)

ありがとうございました。最終的な成果品ができるまで宿題をいただきましたが、期待してもらえたらと思います。担当も今までの経験を生かして、しっかりしたものを作り上げていると思います。この4回の委員会とワークショップに参加していただいた方もいますし、たくさんお世話になりました。是非、委員の皆様にも、パブリックコメントに参加いただいて、またご意見いただければと思います。長いようで、短いようで複雑ですが、私自身この仕事をさせて頂いてよかったと思います。ありがとうございました。

(事務局)

これもちまして、第4回生涯学習推進計画策定委員会を終わります。ありがとうございました。